

1 学校評価の目的

- (1) 本校教職員が自らの教育活動や学校運営の諸事項について目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さなどについて評価することで、学校として組織的・継続的な改善を図る。
- (2) 教職員及び保護者などの学校関係者による評価の実施とその結果の公表・説明を行うことで、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民などからの理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

2 学校評価の方法

(1) 自己評価

ア 概要

全教職員で、教育目標の達成に向けた取組の適切さや努力点の達成状況などについて評価を行う。また、教職員の自己評価の客観性や信頼性を補完するとともに保護者や児童生徒の意見・要望を把握するために、保護者によるアンケートも実施する。

イ 内容

(ア) 教職員による自己評価

- <内容> ① 平成25年度学校経営における努力点（中期目標・中期計画）
② 各分掌，部・係における具体的取組
③ 学部経営目標と具体的取組（各学部）
④ その他

(イ) 保護者へのアンケート

- <内容> ① 教育活動全般
② 教育環境（人的・物的）
③ P T A活動
④ 児童生徒の様子
⑤ その他

ウ 評価基準

教職員による自己評価，保護者へのアンケートともに A・B・C・D の段階評価を用いて行う。その目安は以下のとおりとする。なお，評価の対象は，個々人の取組状況ではなく，学校全体としての取組の状況とする。前年度と比べて平均値に 0.3 以上の差があるものは矢印で表示する。

A：達成できている。

B：ほぼ達成できている。

C：あまり達成できていない。

D：達成されていない。

I 学校経営努力点

1 評価結果（数字は平均値）

| | H 2 4 | H 2 5 | 前年比 |
|--|-------|-------|-----|
| (1) 児童生徒の健康や校内外の安全を確保し、安全指導や生徒指導、保健指導を充実する。 | | | |
| ア 児童生徒の生命を守り育む視点に立ち、一人一人の実態に応じた安全指導や生徒指導、保健指導を行う。 | 3. 4 | 3. 3 | |
| イ 危機管理マニュアルを基に、事故や災害に関する報告・連絡・相談・確認システムを徹底し、迅速できめ細かな対応を行う。 | 3. 0 | 2. 9 | |
| (2) 一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導や必要な支援を充実する。 | | | |
| ア 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の整備・活用・評価を充実し、小・中・高一貫した教育を具現化するとともに、保護者や関係者との相互理解を深める。 | 2. 8 | 3. 0 | |
| イ 大学・学部と連携し、教育課程の在り方を研究するとともに、全体計画や年間指導計画を深化・発展させる。 | 2. 6 | 3. 0 | ↑ |
| (3) 附属学校の役割や機能を生かし大学との共同研究を深め、専門性や資質の向上を図る。 | | | |
| ア 大学・学部の特別支援教育、教科教育の教員との共同研究や附属学校園、県立特別支援学校等と連携した研究を推進するとともに研究の効率化を図る。 | 3. 0 | 2. 9 | |
| イ 教師一人一人が個々の研究テーマを明確化し、専門性を深めるとともに、教員相互の資質を高めようとする協働態勢を整える。 | 3. 2 | 2. 8 | ↓ |
| (4) 力量のある教員を養成するため、大学・学部と連携して教育実習の一層の充実を図る。 | | | |
| ア 大学の教員養成カリキュラムの開発と連動しながら、実習生指導の重点を整理し、授業づくりや児童生徒へのかかわりに関する実践力の養成に努める。 | 3. 2 | 3. 0 | |
| イ 介護等体験、高等学校免許取得者の実習及び特別支援学校採用前実習の企画・運営を引き続き、全校態勢で進める。 | 2. 7 | 3. 6 | ↑ |
| (5) 早期教育相談等の支援体制の充実を図り、センター的機能を果たすための支援を継続する。 | | | |
| ア 幼稚園、保育所、小・中・高等学校在籍の特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒のニーズに応じた支援を行うとともに、早期教育相談の充実を図る。 | 3. 0 | 3. 3 | ↑ |
| イ 附属学校園特別支援教育推進研究委員会の一層の機能化を図るとともに、大学・学部及び保健管理センター等との連携の下、一層の理解・啓発を図る。 | 2. 7 | 3. 0 | ↑ |
| (6) 児童生徒・保護者・地域と共にあり、責任を果たす開かれた学校の創造をめざす。 | | | |
| ア 児童生徒の学習環境の向上のため、施設設備、緑化、情報機器、教材・教具等の整備・充実を図る。 | 2. 5 | 2. 8 | ↑ |
| イ 定期的な学校参観日や学校見学会、学校開放など学校の機能を広く発信する機会を探るとともに、児童生徒の余暇活動の充実に向け積極的な支援を行う。 | 3. 0 | 3. 2 | |
| (7) 社会や時代のニーズに応える学校としての責任を果たす。 | | | |
| ア 時代の要請等を踏まえながら新たな研究テーマを設定し、附属ならではの実践研究の推進に向けた基礎研究を充実する。 | 3. 5 | 2. 7 | ↓ |
| イ 校内で所有する電子データの着実な管理と児童生徒指導要録等の個人情報の保護と管理をマニュアルに即して継続する。 | 3. 0 | 3. 2 | |

2 考察（学校経営努力点に関する）

- (1) 災害時等の危機管理、緊急連絡網などについて、再度確認をする必要がある。大学における緊急時心理分科会からの報告を参考にしたり、これまで本校で行ってきた危機管理マニュアルの再確認、迅速かつ確実な情報伝達のあり方の検討を行ったりして、更なる児童生徒の安全確保に努めたい。なお、本年度の緊急時の電話連絡については、複数の連絡手段を活用して迅速かつ徹底するために、家庭へのメールを補う意味で行った。
- (2) 個別の教育支援計画、個別の指導計画、教育課程、全体計画、指導計画などについては、教務と研究の連携で意識も高まり、改善が図られ充実してきている。
- (3) 研究については、効率化は図られてきている。しかし、公開時期も早まり、スケジュール的に密になる中、研究テーマの共通理解や共通実践が十分になされているとは言い難い。6年後の到達点のイメージと細かいスケジュール立案、次年度公開時の具体的イメージを職員個人レベルで十分理解できるよう、工夫していく必要がある。
個人研究については、個々の研究がどの程度深まっているのか、検証・確認が行う必要がある。また、個人研究の推進のため、学会発表による情報収集や実践情報誌への寄稿など、大学と連携を図りながら行うことができるような個人研究の支援態勢作りも検討したい。
- (4) 教育実習について、より実践力を高めることができるような工夫が求められている。例えば、評価授業や代表授業を行う中で本校が築き上げた授業研究会メソッドを実習生が経験することで、より積極的に授業づくりを行ったり、児童生徒と関わったりすることができるようになるのではないかと考える。
- (5) 施設設備や教材・教具の充実については、限られた予算の中での運用上の工夫が求められている。予算の要求や組み方の工夫と合わせて、中長期的な視点をもって検討していく必要がある。また、施設設備のあり方については、全面改修を見通して、安全かつ児童生徒のニーズに対応した学校となるよう、職員間で話題としたい。
- (6) 開かれた学校の創造について、学校見学や体験学習のあり方を検討する必要がある。教育活動の参観や特色ある教育活動の創造と合わせて、HP更新や学校便りの発行などを通して情報を発信し、本校の良さや取組を積極的にアピールし、入学希望者の増加に努めたい。
- (7) 余暇活動の充実に向けた積極的な支援については、「FSC」や「WA!」といった放課後活動だけではなく、学校の教育活動全体でも取り組んでいる（出掛ける活動等）。余暇活動のとらえ方について共通理解を図りたい。

II 校務分掌活動

1 評価結果（数字は平均値）

| | H 2 4 | H 2 5 | 前年比 | | H 2 4 | H 2 5 | 前年比 |
|--------------|-------|-------|-----|-------------|-------|-------|-----|
| 【総務部】 | | | | 【教育実習部】 | | | |
| ①教務・教育課程 | 3. 5 | 3. 5 | | 教育実習 | 3. 5 | 3. 4 | |
| ②教科用図書公簿 | 3. 4 | 3. 8 | ↑ | 【進路指導部】 | | | |
| ③人権同和教育 | 3. 5 | 3. 6 | | 進路指導 | 3. 6 | 3. 6 | |
| ④情報・視聴覚 | 3. 0 | 3. 6 | ↑ | 【生徒指導部】 | | | |
| ⑤交流教育 | 3. 6 | 3. 6 | | ①生活・通学指導 | 3. 4 | 3. 4 | |
| 【支援部】 | | | | ②読書指導 | 3. 1 | 3. 2 | |
| ①校内支援① | 3. 1 | 3. 3 | | ③学校行事 | 3. 6 | 3. 8 | |
| ②校内支援② | | 3. 3 | | ④児童生徒会・HR | 3. 3 | 3. 5 | |
| ③入学選考委員会 | 3. 4 | 3. 1 | ↓ | 【保健指導部】 | | | |
| ④特別支援教育推進委員会 | | 3. 5 | | ①保健・給食① | 3. 4 | 3. 6 | |
| ⑤附属学校園支援 | 3. 3 | 3. 4 | | ②保健・給食② | 3. 5 | 3. 5 | |
| ⑥早期教育相談事業等 | 3. 4 | 3. 6 | | ③体育指導 | 3. 4 | 3. 6 | |
| ⑦小中学校等支援 | 3. 2 | 3. 0 | | ④安全・防犯・防災指導 | 3. 4 | 3. 5 | |
| ⑧スキルアップセミナー | 3. 5 | 3. 5 | | ⑤環境整備 | 3. 2 | 3. 4 | |

| 【渉外部】 | | | | 【研究部】 | | | |
|----------|------|------|--|---------|------|------|---|
| ①放課後活動支援 | 3. 2 | 3. 4 | | 研究 | 3. 6 | 3. 0 | ↓ |
| ②学校評価委員会 | 3. 4 | 3. 5 | | 【自立活動部】 | | | |
| ③卒業生支援 | 3. 6 | 3. 4 | | 自立活動 | 3. 0 | 3. 5 | ↑ |
| ④一心会・明伸会 | 3. 6 | 3. 8 | | | | | |
| ⑤PTA 係 | 3. 6 | 3. 8 | | | | | |

2 考察（校務分掌活動に関する）

- (1) 教務関係は、年々効率的になってきている。児童生徒下校後の会議等の精選を更に進めたい。
- (2) 市との指定校交流については、相手校の意識の向上や事前の打ち合わせの難しさなど、多くの課題が見られる。また、行事の再編、スケジュール変更等で、市の指定校交流の回数を見直す必要がある。
- (3) 情報・視聴覚教育に関する評価が高くなってきている。タブレット端末の充実・活用が図られたこと、ホームページの刷新が図られたことが要因と考えられるが、他校種の現状と比較すると、更に充実を図っていく必要がある。
- (4) 本年度からスタートした特別支援教育推進委員会では、各学部における事例発表を行った。担任を中心とした具体的な取組が紹介され、回を重ねるごとに充実してきている。提供された話題や討議された内容の周知方法について検討したい。
- (5) 入学志願者減であったことについて、具体的に検討する場を設定する必要がある。入学選考委員会は入学選考に関わる実務について検討する場であるので、既存の部や委員会、又は主事会等で具体策を早期に検討し、意識を高めたい。
- (6) 図書室の蔵書充実と積極的活用については、これまでも課題として挙げられてきている。予算確保や計画的購入と合わせて、読み聞かせの効用や資料活用力、読書する習慣の形成等に関する職員の意識を更に高めていきたい。
- (7) 放課後活動支援や卒業生支援については、そのあり方や職員の協力体制づくりが経年の課題である。活動の意義や成果、課題を明らかにして、共通理解を図りたい。スケジュールの周知については、なるべく早い段階で行いたいが、実施の有無や生徒・卒業生等の参加状況にも左右されるという点について理解しておきたい。
- (8) 研究と教育実習という、本校に課せられた使命を更にしっかりと果たすことができるよう、職員の指導担当者としての意識や知識の向上を図る必要がある。関連して、新任者研修のあり方についても、指導案の書き方の理解が深まるよう、実施方法を工夫する必要がある。教科観や児童生徒観、授業観を豊かにもつ教師集団でありたい。
また、研究（公開）については、I-2-(3)で述べたとおり、スケジュールや内容について、共通理解を深めたい。
- (9) 自立活動については、時間における指導が充実してきていると思われる。個別の指導計画（自立活動）に基づいた指導、実践を更に深めていきたい。

Ⅲ その他

1 評価結果

| | 質問項目 | H23 | H24 | H25 | 前年 比 |
|-----------|--|-----|-----|-----|---------|
| 1 学校全体 | ア 職員会議は計画的（時期的・内容的）に実施されている。 | 3.5 | 3.7 | 3.8 | |
| | イ 職員会議で適切な審議や確認がなされている。 | 3.3 | 3.5 | 3.6 | |
| | ウ 運営委員会では、必要な事項が十分に審議されている。 （運営対象者のみ） | 3.3 | 3.5 | 3.7 | |
| | エ 日々のスケジュールが効率的に組まれている。 | 3.1 | 3.0 | 3.4 | ↑ |
| | オ 自分にとって公務上必要な情報が適切に伝達されている。 | 3.1 | 3.5 | 3.6 | |
| | カ 学校行事（年間、月）は、適切に組まれている。 | 3.0 | 3.1 | 3.5 | ↑ |
| | キ どこが担当する仕事であるか、業務のすみ分けが明確になされている。 | 2.7 | 2.8 | 3.4 | ↑ |
| | ク 部会・係会が効率的に組まれている。 | 3.1 | 3.1 | 3.5 | ↑ |
| 2 所属学部 | ケ 分掌に関して、前年度からの引継ぎ資料が十分に活用されている。 | 2.7 | 2.9 | 3.1 | |
| | ア 学部会は、計画的（時期的・内容的）に実施されている。 | 3.3 | 3.6 | 3.8 | |
| | イ 学部内の仕事が公平（能力的・経験的）に分担されている。 | 2.9 | 3.2 | 3.0 | |
| | ウ 学部の運営は、工夫・改善されている。 | 3.2 | 3.6 | 3.5 | |
| | エ 学部の運営上、次年度以降、工夫・改善の必要な取組がある。※逆転項目 | 3.2 | 2.8 | 3.1 | ↓ |
| | オ 授業ミーティングは効果的に活用されている。 | 2.8 | 2.9 | 2.6 | ↓ |
| 3 学級 | カ 仕事上、必要な情報は得られている。 | 3.1 | 3.4 | 3.5 | |
| | ア 担当者間で情報の連携が適切に行えている。 | 3.3 | 3.4 | 3.5 | |
| | イ 学級事務等は公平（能力的・経験的）に分担されている。 | 3.2 | 3.3 | 3.3 | |
| 4 個人 | ウ 学級経営に係る仕事は工夫されている。 | 3.2 | 3.1 | 3.3 | |
| | ア 個人で進めたい研究（テーマ）がある。 | 3.0 | 3.2 | 3.3 | |
| | イ テーマをもち個人研究を進めている。 | 2.3 | 2.8 | 2.8 | |
| | ウ 担当している部や係などの仕事は負担なく取り組んでいる。 | 2.6 | 2.8 | 3.0 | |
| | エ 次年度以降、担当してみたい部や係の仕事がある。 | 3.0 | 3.0 | 3.0 | |

2 考察（学校全体、学部、個人に関する）

- (1) 学校全体では、日々のスケジュール、行事・業務の棲み分けについての評価が高い。総務部を中心に取り組んでいる成果が伺える。
- (2) 授業ミーティングについては、時間枠としての意識が低いことが考えられる。しかし、授業の打ち合わせは日常的に行われていることを考えると、校時表の共通理解をしっかりと図り、有効に取り扱う必要がある。
- (3) 個人研究の評価が低かったことに関しては、I-2-(3)に述べたとおりである。
- (4) 仕事分担の公平性については、年度当初に学校全体、各学部で十分留意する。

IV 保護者アンケート

1 評価結果

| 質問項目 | | 全体平均 | | | 前年比 |
|------|---------------------------------------|------|-----|-----|-----|
| | | H23 | H24 | H25 | |
| 教育活動 | ① 学校・学部・学級の教育方針や教育目標は、分かりやすい。 | 3.3 | 3.4 | 3.5 | |
| | ② 子どもたちの実態や課題に応じた授業が行われている。 | 3.3 | 3.4 | 3.4 | |
| | ③ 子どもたちに応じた特色ある学校・学部行事が行われている。 | 3.3 | 3.3 | 3.5 | |
| | ④ 連絡帳や学級通信等は、学校や授業での取組をよく伝えてある。 | 3.5 | 3.5 | 3.6 | |
| | ⑤ 通知表「あゆみ」は見やすく、子どもの成長や課題をよく伝えてある。 | 3.6 | 3.5 | 3.6 | |
| | ⑥ 個別の教育支援計画による教育方針は、分かりやすい。 | 3.3 | 3.4 | 3.5 | |
| | ⑦ 個別の指導計画による具体的な取組は、分かりやすい。 | 3.3 | 3.4 | 3.4 | |
| | ⑧ 教師は、子どもをよく理解し、真剣に対応している。 | 3.5 | 3.4 | 3.6 | |
| | ⑨ 教師は、保護者の悩みや相談に親身に対応している。 | 3.6 | 3.5 | 3.6 | |
| | ⑩ 教師の言葉遣いや対応は、丁寧で適切である。 | 3.5 | 3.7 | 3.6 | |
| 教育環境 | ⑪ 教育活動を行うのに十分な施設や設備が整っている。 | 3.0 | 3.1 | 3.2 | |
| | ⑫ 校舎や教室などの清掃や片付けが行き届いている。 | 3.1 | 3.2 | 3.3 | |
| | ⑬ 危険箇所などへの安全配慮が十分なされている。 | 3.1 | 3.2 | 3.4 | |
| 連携 | ⑭ 学校と家庭は、子どもの目標に協力して取り組んでいる。 | 3.4 | 3.3 | 3.5 | |
| | ⑮ 学校と家庭は、日常的に連絡を十分取り合っている。 | 3.4 | 3.4 | 3.5 | |
| | ⑯ 学校は、保護者の研修に対しての協力を十分行っている。 | 3.4 | 3.4 | 3.5 | |
| | ⑰ 学校は、地域や関係機関との連携を十分にとっている。 | 3.2 | 3.2 | 3.2 | |
| 他 | ⑱ P T A活動は、P T A会員の意思を反映し、計画的に行われている。 | 3.2 | 2.9 | 3.0 | |
| | ⑲ 子どもは、毎日楽しく登校している。 | 3.7 | 3.7 | 3.7 | |
| | ⑳ 子どもの成長を感じている。 | 3.6 | 3.5 | 3.6 | |

2 考察（保護者アンケートに関する）

- 教育活動全般について、昨年度と比較してもよい評価であった。しかし、一部の保護者の方々からは、「保護者の悩みや相談に親身に対応している。」「教師の言葉遣いや対応は、丁寧で適切である。」点について、厳しい評価をいただいている。真摯に受け止めたい。
- 施設設備の充実については、前年比としてはよい評価だが、評価点は他項目と比べると低い。中長期的な計画立案等も含めて、今後の学校としてのビジョンをもちたい。
- 地域や関係機関との連携については、具体的にイメージしにくい質問項目だった（地域はどこを指すのか、関係機関とは具体的にどこを指すのか）。また、学校として、どの程度地域や関係機関を意識した取組を行えているのか、再確認する必要がある。
- P T A活動に対する評価は、前年比では上昇しているものの、相対的には低い評価点だった。P T Aバザーの見直し（調理業務の削減）、もちつき大会の内容変更等を行ったが、負担が軽減され、よかったという方と、これまでと比べると寂しくなったという方、双方の意見が出されている。これまでの活動でよかったことは継承しつつ、実情（家庭環境やP T A活動に対する意識の変化、保健・衛生管理の厳正化）に合わせて柔軟に対応していく必要がある。P T A活動への理解・啓発と併せて、負担感軽減のための具体的な手立てを更に具現化したい。
- 学校、学級での児童生徒の様子や具体的な取組について、学校便りの発行や週報・学部便り等の充実、理解されやすい連絡帳やあゆみ・個別の指導計画の工夫などを通して、保護者に丁寧に伝え、連携を更に深めたい。